

「沖縄21世紀ビジョン」(骨子案)

はじめに

[なぜ今、ビジョンが必要なのか]

我が国は、本格的な少子高齢化・人口減少社会が到来するなか、社会経済の急速なグローバル化への対応を迫られるなど、大きな転換期を迎えており、沖縄も決して例外ではない。

国民の多くが、現状への不満と将来への不安を抱いたまま、閉塞感に陥っている。いまこそ、次の世代をしっかりと見据えて、真の豊かさを追求する長期的な戦略の構築が求められている。

一方、地方分権改革が進展し、道州制議論が活発化するなか、沖縄振興計画が2012年3月に終了することや、大規模な米軍基地の返還が迫っていることなど、本県を取り巻く環境も大きく変化しつつある。

こうした変化を絶好の機会として捉え、果敢に挑戦していくとの決意をもって、沖縄の進むべき方向性の議論を開始しなければならない。

『基本的な考え方』「1(2)21世紀ビジョンの必要性」より

変化の激しいときこそ、地域にあっては長い目でものを見なければならない。新たな枠組みが未成熟なまま、古い伝統的なものが崩壊していくと、地域は衰退していくだけである。

このことを踏まえ、沖縄の将来像を描くうえで、何を残し何を变えていくかを明らかにし、課題と目標を県民全体で共有していくことが重要である。

豊かな自然や歴史、伝統・文化など、失われつつある沖縄の良さを守り継承するとともに、新しい時代に対応した社会システムの構築や地域の活性化につながる産業経済構造の変革などに、積極的に取り組んでいく必要がある。

沖縄の進路を切り開き、同時に閉塞した我が国経済社会の活路をも探るような思い切ったビジョンを策定するものとする。

ありたい沖縄、あるべき沖縄を示すと、現実の社会が別の方向に行った場合、軌道修正ができる。

『基本的な考え方』「1(3)策定の視点」より

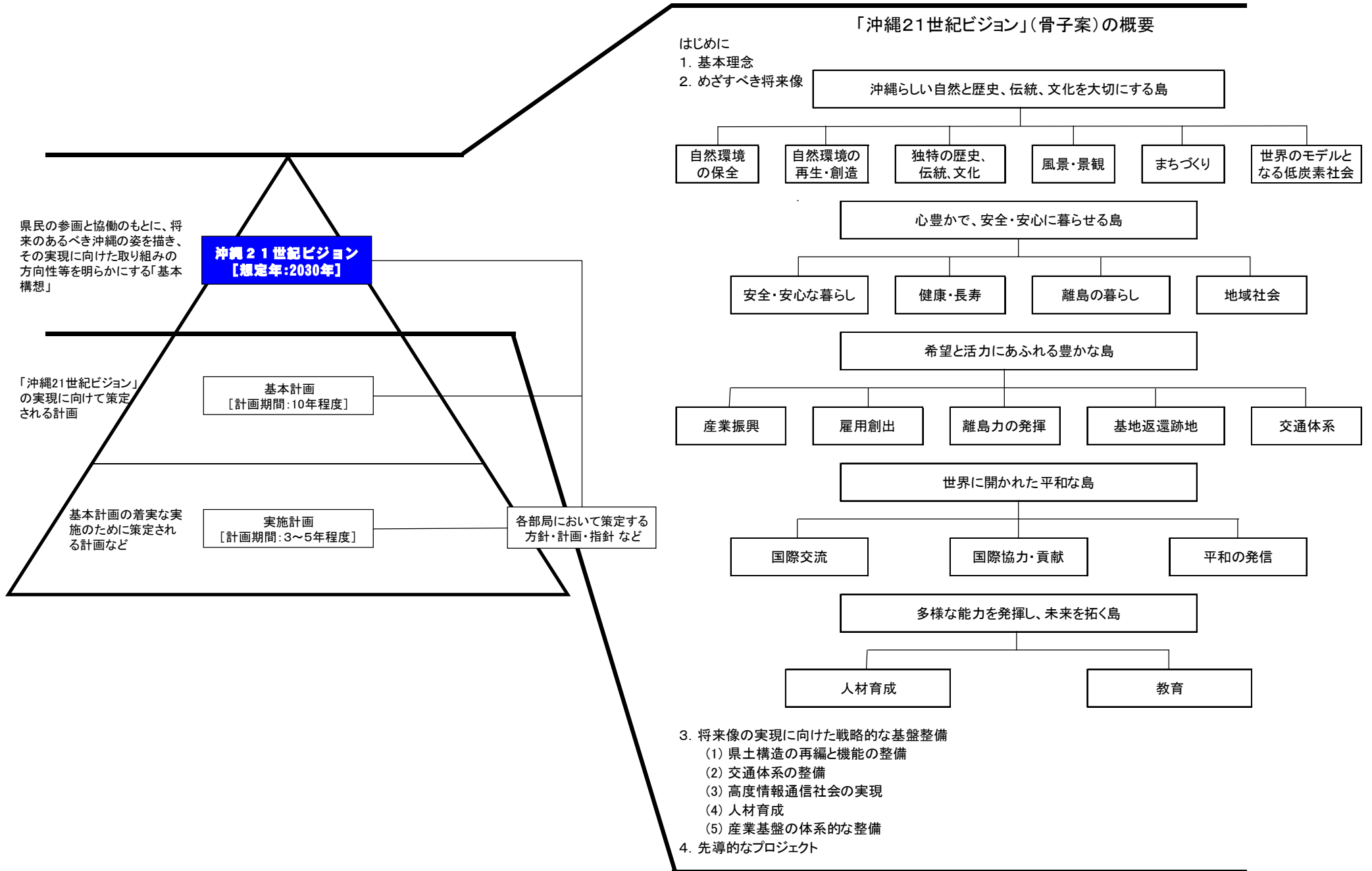
[21世紀ビジョンとは何か]

21世紀ビジョンは、県民の参画と協働のもとに、将来(概ね2030年)のあるべき沖縄の姿を描き、その実現に向けた取り組みの方向性と、県民や行政の役割などを明らかにする基本構想である。

本ビジョンは、沖縄県として初めて策定する長期の構想であり、沖縄の 将来像の実現を図る県民一体となった取り組み及びこれからの県政運営 の基本的な指針となるものである。

『基本的な考え方』「1(1)21世紀ビジョンとは」より

[図] ビジョンと基本計画等との関係



時代潮流

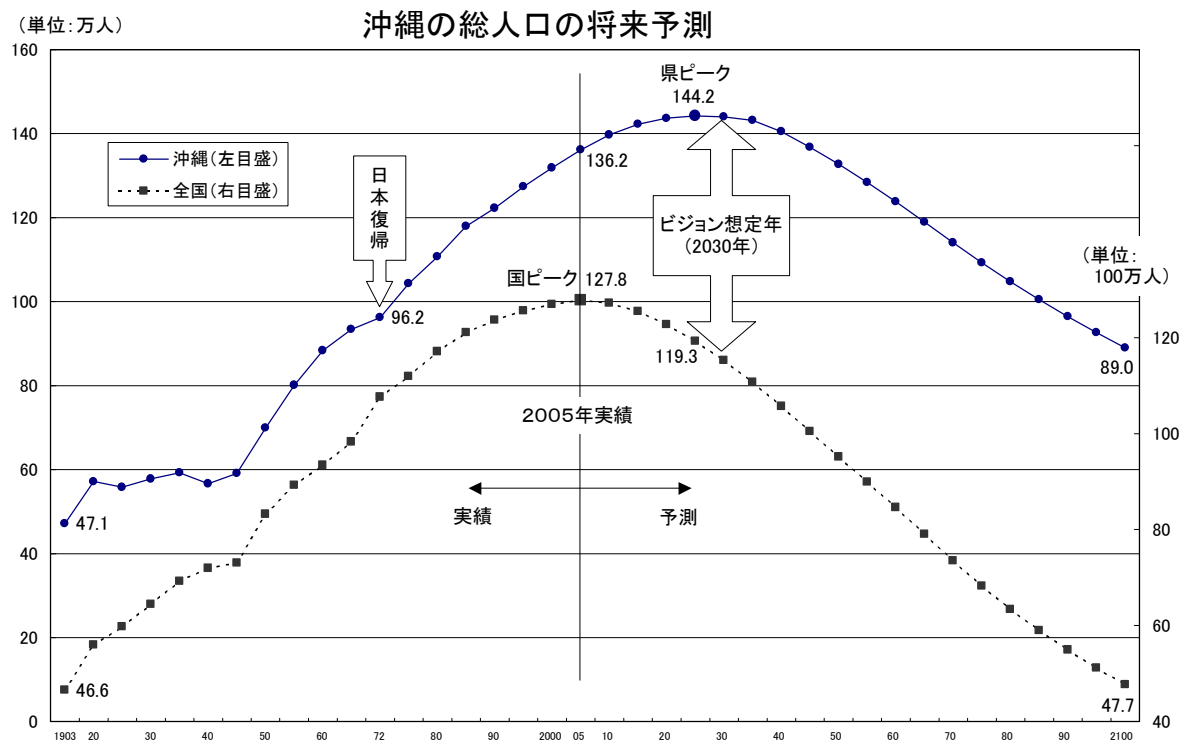
(1) 少子高齢化・人口減少社会の到来

本県の人口は、2005年時点で136万人であるが、2030年には144万人程度となり、6%程度増加する。ただし、2025年前後にピークを迎え、それ以降は人口減少社会となることが見込まれる。

年齢別には、年少人口(0～14歳)割合が現在の19%から14%程度に、生産年齢人口(15～64歳)が65%から60%程度に低下する一方で、老年人口(65歳以上)割合は、現在の16%から26%程度に上昇するものと見込まれる。

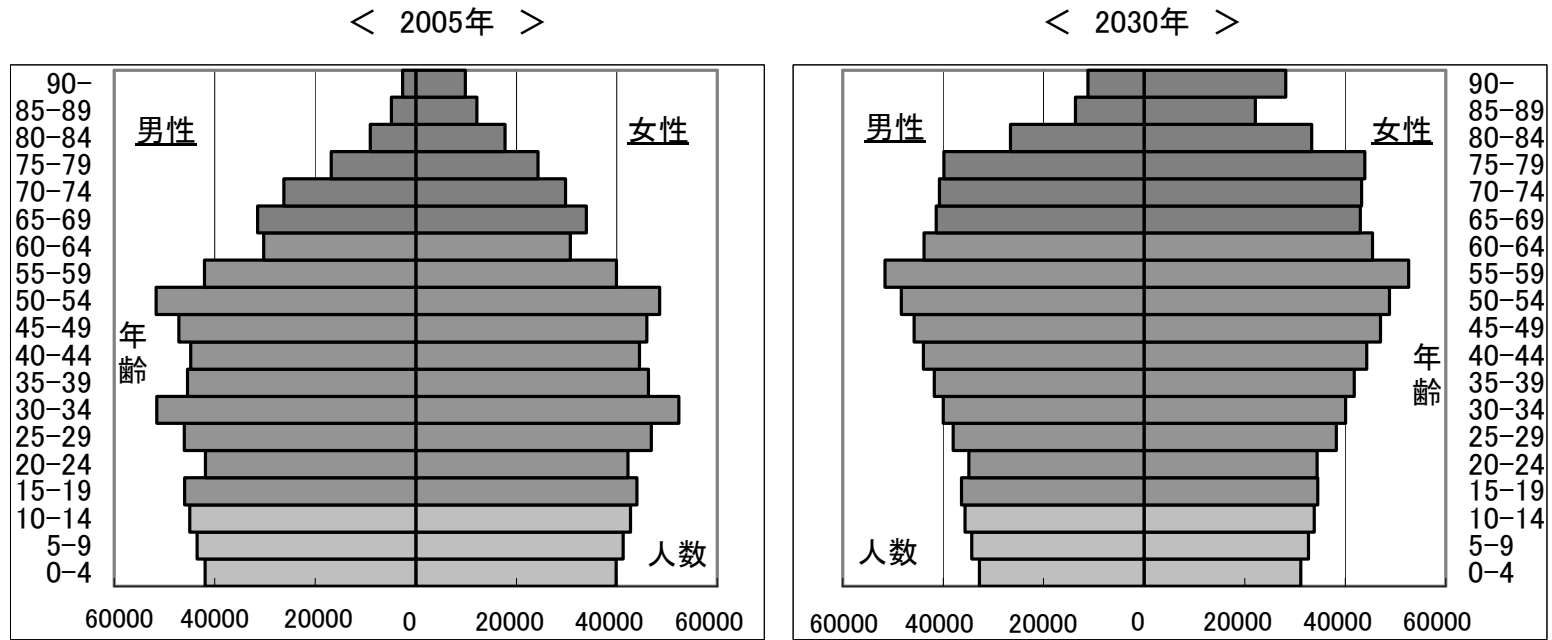
生産年齢人口による老年人口の扶養負担の程度を表す老年従属人口指数は、2005年時点の25% (働き手4.1人で高齢者1人を扶養) から、45% (働き手2.2人で高齢者1人を扶養) 程度に上昇するものと見込まれる。

労働力人口の減少により、経済成長の鈍化や税収の減少などが、また、高齢化に伴い、社会保障制度に関する現役世代の負担増や行政サービスの低下などが、懸念される。



(注) 1.2005年までは実績、2010年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計による。
 2.沖縄県における2035年以降の推計値、全国における2060年以降の推計値は、長期の人口推移分析のための参考推計結果である。
 (資料) 実績値は、総務省統計局「国勢調査」
 推計値は、沖縄県企画部による推計

沖縄の人口構造の将来予測



(単位:人、%)

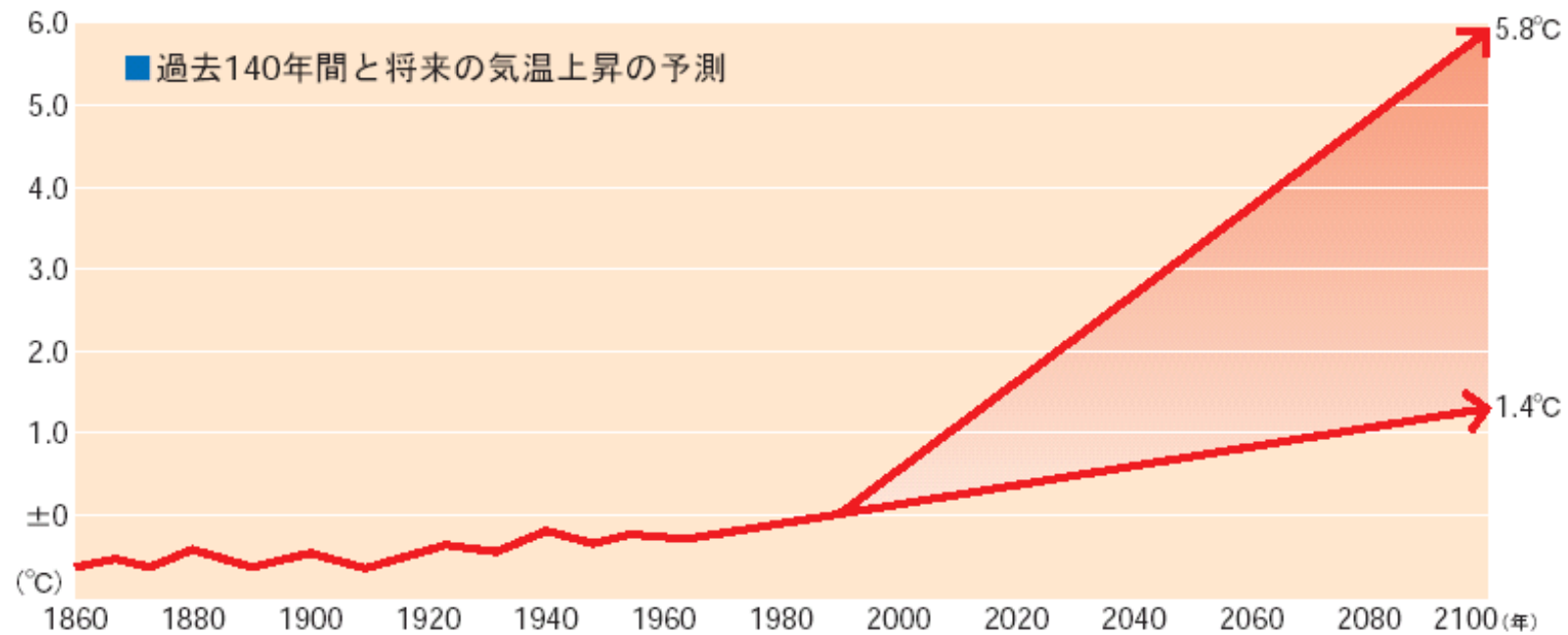
	2005	2010	2015	2020	2025	2030	
沖縄県総人口(人) A	136.2	139.7	142.2	143.6	144.2	144.0	
年少人口(0歳~14歳) B	25.4	24.6	23.5	22.1	20.9	20.0	
生産年齢人口(15歳~64歳) C	88.8	90.9	90.7	88.6	86.9	85.2	
老年人口(65歳以上) D	21.9	24.2	28.0	32.9	36.3	38.7	
人口比率(%)	年少人口(B/A)	18.7	17.6	16.5	15.4	14.5	13.9
	生産年齢人口(C/A)	65.2	65.1	63.8	61.7	60.3	59.2
	老年人口(D/A)	16.1	17.3	19.7	22.9	25.2	26.9

(資料)総務省統計局「推計人口」

(2) 地球温暖化など地球規模での環境問題の深刻化

世界では現在も、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会システムが広がりつつあり、地球温暖化や森林破壊、大気・海洋汚染など、地球規模での環境問題が深刻化している。

地球温暖化については、このまま温暖化が進むと、地球の表面気温は1990～2100年間に1.4～5.8℃上昇すると予測されており、これは20世紀に観測された地球温暖化に比べて約2～10倍の大きさになるとされている。これにより、海水面の上昇、洪水やハリケーン等の異常気象の増加、生物種の大規模な絶滅を引き起こす可能性が指摘されている。



(資料)環境省パンフレット

(3) アジアの経済発展とグローバル化の進展

世界人口は、2025年には80億人に達し、その内、47億人がアジア地域に集中する見込みである。

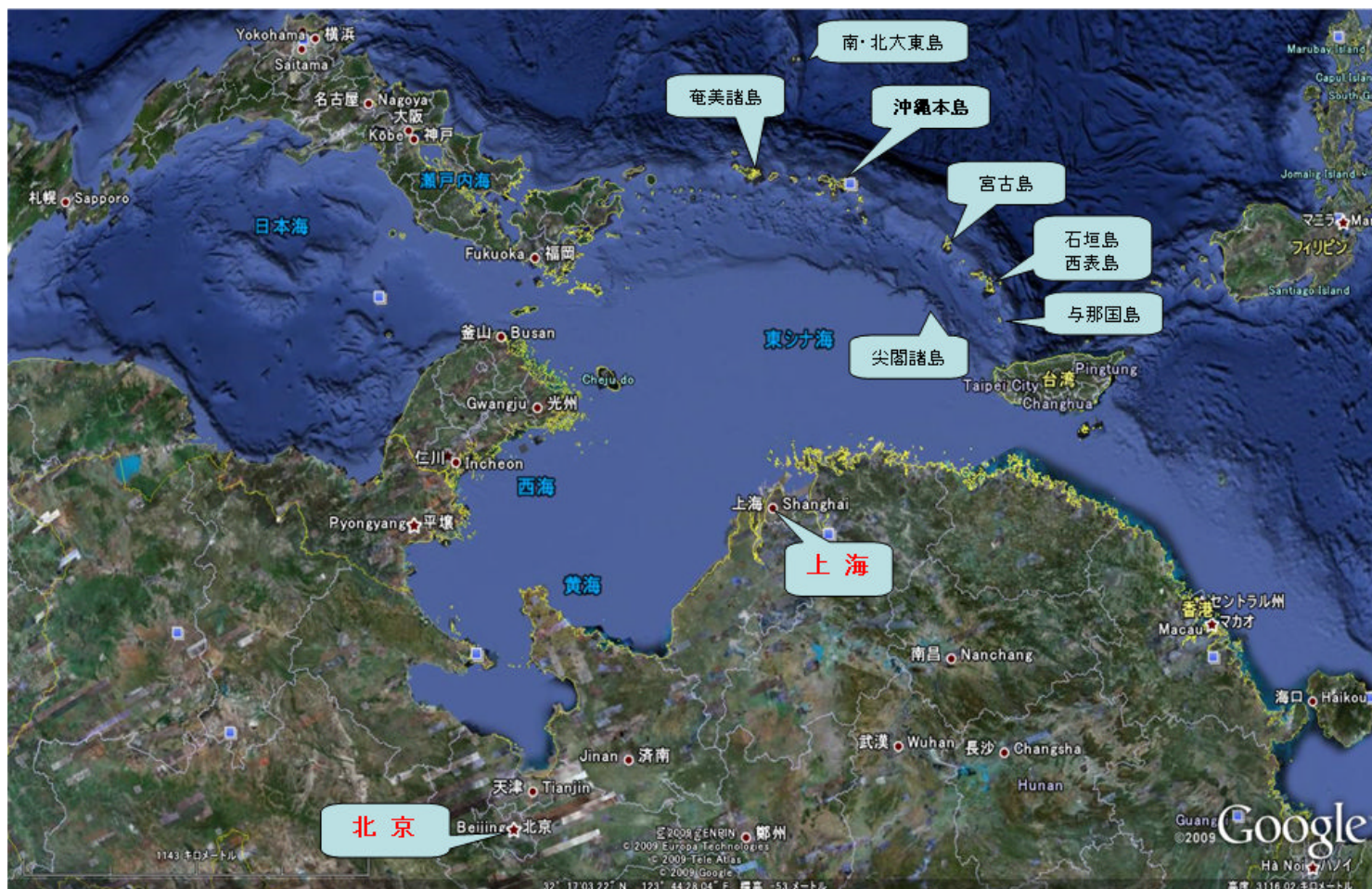
アジア、とりわけ東アジア地域は著しい経済成長を遂げており、世界の経済勢力地図は大きく変化することが予測される。

また、グローバル化が過去にない規模・スピードで進んでおり、とりわけ、IT、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー等の先端科学技術に関する各国の人材獲得競争が激化している。

日本本土、中国大陸、東南アジア諸国を結ぶ中心部にある沖縄の地理的優位性を活かし、アジアとの人的・物的交流ネットワークや、世界規模の課題解決に向けた国際交流・協力および国際貢献の拠点形成等について検討する必要がある。

また、沖縄科学技術大学院大学を核にした知的クラスターの形成も重要である。

沖縄周辺海域図



1. 基本理念

時代の変遷や社会の変化に対応・適応し、「人間を大切にする」沖縄の文化を守り、沖縄の人々の「くらし(厚生)」を最大にする。
世界一のくらし良さを目指す。

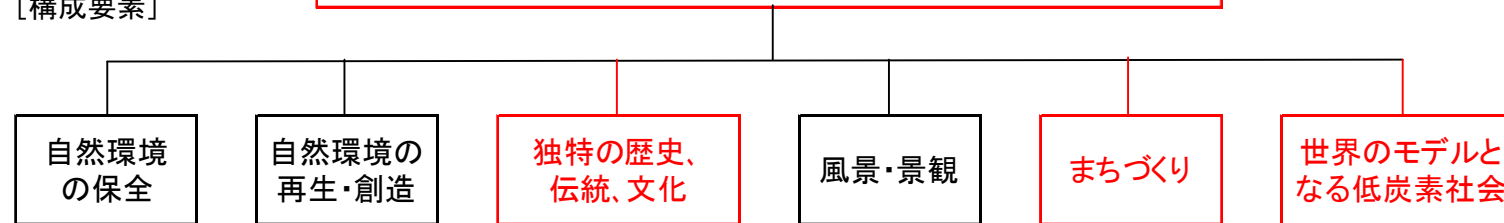
宣言性
思想性
対話の継続
(時代の変化に応じて見直しを検討)

2. めざすべき将来像

[めざすべき将来像]

沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島

[構成要素]



[将来像設定の意義]

(沖縄らしい自然を大切にする島)

県民意見の多くが沖縄の将来像として「美しい自然環境」をあげており、ビジョンにおいて重要なポイントである。

沖縄の自然と風景は、人々の生活の舞台として重要である。

また、沖縄に暮らす人々の誇りの源となっている。

さらに、沖縄の魅力の一つとして国内外から多くの観光客をひきつけ、大きな経済効果をもたらしており、沖縄の重要な資源となっている。

世界的に見ても、東洋のガラパゴスとも称されるほど希少種が多く生息しており重要な地域である。

沖縄の自然、文化の持つポテンシャルをしかと認識し、発展に資する現代におけるソフトパワーの意義を示す。

その一方で、島嶼地域という特性から環境は脆弱であり、貴重な資源である自然や風景を、劣化させることなく、次世代にどう引き継いでいくかを検討することが現世代の責務である。

(歴史、伝統、文化を大切にする島)

沖縄の歴史、伝統、文化は連綿と受け継がれ、人々の生活の中にしっかりと息づき、切り離せないものとなっている。

また、伝統文化を拠り所として、世界中のウチナーンチュの「沖縄アイデンティティ」を形成している。この「沖縄アイデンティティ」は、沖縄に暮らす人々の誇りの源ともなっている。

さらに、沖縄の魅力の一つとして国内外から多くの観光客をひきつけ、大きな経済効果をもたらしており、沖縄の重要な資産となっている他、我が国、ひいては世界文化の多様性の一角を担っている。

沖縄の文化の現代、未来におけるポテンシャル

人が原点 人を昇華させる文化

衣食住足りて後は文化、芸術等の精神活動に極端な格差のない島

その一方で、伝統文化の担い手が不足しており、特に、人口減少・高齢化が著しい離島においては危機的な状況にある。沖縄の伝統文化を、次世代にどう引き継いでいくかを検討することが現世代の責務である。

	①めざすべき将来像 [具体的な姿]	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
<p style="writing-mode: vertical-rl; color: red;">沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切に する島</p>	<p>豊かな自然の残る美ら島では、青い海と自然の海岸線がどこまでも続き、自然海岸と平行して連なるサンゴ礁により、イノー(礁池)の穏やかさが守られている。美ら島には、世界的にも貴重な生物が多く生息し、生物の多様性が守られている。</p> <p>こうした独特の自然や風景を求めて、国内外から多くの観光客が訪れ、癒しの風土の中で心身ともに健康になっている。多くの観光客が訪れることで、沖縄に暮らす人々に大きな経済効果をもたらしている。</p> <p>また、多くの人々を魅了する自然と風景は、沖縄に暮らす人々の誇りの源ともなっており、物心両面での豊かさをもたらしている。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl;">自然環境の保全</p>	<p>○島嶼地域の脆弱性に、どのように配慮すべきか。</p> <p>○生物の多様性を、どのように守るべきか。</p> <p style="color: red;">○特に、自然環境の保全を図るべき地域については、聖域化も検討すべきか。</p>	<p>●ゾーニングやキャリングキャパシティ、保全のためのルール等を含め、先進的な環境共生・循環型社会モデルを構築する。</p> <p style="color: red;">●聖域の定義を明確にした上で、特定地区や特定離島に聖域(サンクチュアリー)を設定する。</p>
	<p>琉球王朝時代より培われてきた伝統芸能や伝統工芸、食文化等が連綿と受け継がれ、人々の生活の中に息づいている。人々にとって、この独特の文化や習慣は誇りの源となっており、沖縄に暮らす人々のみならず、世界中のウチナーンチュの沖縄アイデンティティを形成している。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl;">再生・環境創造の自然環境</p>	<p>○本土復帰後の急速な社会資本の整備等の開発によって失った自然環境を、どう取り戻すべきか。</p>	<p>★キャリングキャパシティ等を踏まえ、「自然再生型」「環境創造型」の事業を計画的に導入する。</p>
	<p>また、広大な海域に点在する多くの島々は、それぞれ独自の伝統文化を持ち、それぞれの島の多様な個性は、沖縄文化を奥深いものとし、この多様性が沖縄文化の価値を高めている。人々は文化を守り、継承するのみならず、新たな文化として創成させている。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl;">独特の歴史、伝統、文化</p>	<p>○歴史・伝統文化等をどう守り・継承していくか。</p> <p style="color: red;">○大切にすべき県民性を、どのように守り、活かしていくか。</p> <p style="color: red;">○新たな文化を、どう創成していくか。</p>	<p>●歴史・伝統文化等を守るための仕組みと併せ、世界に発信する仕掛けを構築する。</p> <p>●歴史・伝統文化等を地域資源として保全しつつ持続的に活用していくことで、継承・発展を図る。</p> <p style="color: red;">●歴史・生活文化を踏まえつつ、肝心、イチャリバチョーデー、ユイマールなど県内外から 沖縄の良さと認識される県民性を、地域社会をはじめ様々な分野で活かしていく。</p> <p>●人材育成システムの構築や育成機関の充実等を図る。</p>
	<p>歴史の中で培われてきた家族や地域との絆を大切に する文化や習慣は、肝心、イチャリバチョーデー、ユイマール等の「沖縄の心」として受け継がれ、人と人との絆の強い社会が形成されている。人々は、何よりも人を大切に、心の豊かさに価値を見出している。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl;">風景・景観</p>	<p>○沖縄らしい風景を、どのように考え、どのように活用していくべきか。</p>	<p>●歴史・伝統的背景を踏まえつつ、将来に向けて保全・創造していく。</p> <p>●快適性や安全性などの観点も含め、時間とともに風景や景観の価値が高まるようなまちづくりを進める。</p>

	①めざすべき将来像 [具体的な姿]	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島</p>	<p>人々は、年間を通して温暖な気候と沖縄らしい風景の下、生き生きとした生活を送っている。「自然は資源」との考えが共有され、環境を優先する意識を持った人々による自然に優しい生活や経済活動が営まれており、島嶼地域に合った循環型社会が確立している。</p> <p>沖縄らしい風景を形成している街並みは、亜熱帯島しょの特性に配慮され、自然と調和した風景が広がり、温暖な気候と相まって癒しの風土として息づいている。</p> <p>人々が共有する環境と共生する社会づくりの意識は、地球温暖化対策の世界的なモデル地域を形成し、世界的にも注目を集めるエコアイランドとして世界中に情報発信されている。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まちづくり</p>	<p>○自然の風景と都市の景観をどのように調和させるか。</p> <p>○高齢社会に対応したまちづくりを、どう進めていくか。</p>	<p>●公共空間のあり方も含め、歩ける街、健康になれるアーバンデザインを創造する。</p> <p>●バリアフリー化やユニバーサルデザインの導入を推進する。</p>
			<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">世界のモデルとなる低炭素社会</p>	<p>○低炭素社会をどう構築するか。</p> <p>○低炭素社会の意識を、どのように育むべきか。</p> <p>○農山漁村のCO2削減、水源涵養など多面的な役割を、どのように考えるか。</p> <p>○環境と経済の好循環を、どのように構築すべきか。</p> <p>○持続可能な循環型社会を、どのように形成すべきか。</p> <p>○国際的な低炭素社会モデル地域を、どのように構築すべきか。</p>

[実現効果]

(沖縄らしい自然を大切にする島)

沖縄で暮らす人々の生活に潤いと安らぎをもたらす。
独特の自然と風景は、人々の誇りの源となっている。
独特の自然と風景は、沖縄の資源として経済的な効果をもたらしている。
来訪者に癒しを与え、国内外の人々の心身の健康に寄与している。
世界のエコアイランドとして、地球温暖化など環境対策で技術貢献している。
ソフトパワーによるビジネスの具現化でさらに進んだ先進国、ポスト先進国になれる。

(歴史、伝統、文化を大切にする島)

沖縄の独特な伝統文化は、人々の誇りの源となっている。
世界中で暮らすウチナンチュの沖縄アイデンティティの拠り所となっている。
また、琉球王朝時代から受け継がれてきた沖縄の資産として、経済的な効果をもたらしている。
さらに、沖縄の伝統文化は、我が国、ひいては世界の文化の多様性の一角を担っている。

[めざすべき将来像]

心豊かで、安全・安心に暮らせる島

[構成要素]

安全・安心な暮らし

健康・長寿

離島の暮らし

地域社会

[将来像設定の意義]

県民意見では、沖縄の将来像として「美しい自然環境」に次いで、「安全・安心な暮らし」をあげる県民が多く、ビジョンにおいて重要なポイントである。

人々の暮らしにとって、安全・安心は不可欠な要素である。

特に、島嶼地域においては、離島の教育、医療福祉、自然災害等の確保が重要な課題である。

また、イチャリパチョデー、ユイマールに代表される「沖縄の心」に支えられてきた地域社会は、都市化の進行等により変容しており、地域社会をどう再生するかも重要な課題である。

地域社会の変容は、安全・安心の確保に大きな影響を与え、両者は一体として検討すべき課題である。

離島の人口減少、少子高齢化は深刻であり、離島生活の安全・安心に資するユニバーサルデザインの確保に向けて、島嶼地域全体でコストを負担するなど「ユイマールモデル」の検討が、今こそ必要である。

世界中の島嶼地域に対する先進的なモデルとして発信できる可能性もある。

	①めざすべき将来像 [具体的な姿]	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
<p style="writing-mode: vertical-rl; color: red;">心豊かで、安全・安心に暮らせる島</p>	<p style="color: red;">沖縄は島嶼性という固有の環境を活かし、地域の宝・財産、文化資源を地域全体で共有している。</p> <p>どの島で暮らしていても、人々は平和で安全に、そして快適に暮らしている。</p> <p>人々は、地域で取れた、人のぬくもりが実感できる産物を食し、安全で、安心な生活を送っている。</p> <p>また、一人ひとりが生きがいを持ち、暮らしたい島で働き、十分な医療が受けられ、文化的な生活を送っている。</p> <p>どの島で暮らしていても、安心して子供を産み育てることができ、子供達は「島の宝」として大切にされている。子供達は希望と意欲にあふれ、社会の中で十分な教育を受け、健全に育っている。</p> <p>一人ひとりが豊かな心と健康な体を持ち、世界一の長寿を誇っている。</p> <p>それぞれの島の伝統文化は、沖縄文化として世界に発信され、国内外の多くの人々を魅了し、「健康・長寿の島」を支える食文化など沖縄文化を求めて、国内外から多くの観光客が訪れてる。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; color: red;">安全・安心な暮らし</p>	<p>○安心して働ける雇用環境をどう整備するか。</p> <p>○安心して子どもを産み育てる環境をどう整えるか。</p> <p>○社会保障や保健医療制度についてどう考えるか。</p> <p>○災害への対応や治安の維持等をどう図っていくか。</p> <p>○グローバル化の進展に伴う感染症などのリスクにどう対応していくか。</p> <p>○米軍基地から派生する事件、事故等が後を絶たないことは大きな課題。</p>	<p>●働きたい人が働きたい職につける多様な雇用の場の確保や、仕事と生活の調和に配慮した職場環境など、労働者が安心して働ける環境整備を進める。</p> <p>●妊婦に対する保健医療体制の充実や地域における子育て支援、保育サービスの充実など社会全体で子育て等を支援する環境を整備する。</p> <p>●社会保障、保健医療システム等の再設計により保健・医療・福祉の充実を図る。</p> <p>●地域コミュニティの再生等により防災・治安機能の向上を図る。</p> <p>★国際的な研究機関の誘致・創設により、地球規模の課題の解決に向けた国際貢献・協力の拠点を形成する。</p> <p>●米軍の綱紀粛正の徹底、地域協定の見直し等</p>
			<p style="writing-mode: vertical-rl; color: red;">健康・長寿</p>	<p>○健康・長寿の沖縄を、どのように復活するか。</p>
		<p style="writing-mode: vertical-rl; color: red;">離島の暮らし</p>		<p>○離島の暮らしをどう守り発展させていくか。</p>

	①めざすべき将来像	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
心豊かで、安全・安心に暮らせる島	<p style="text-align: center;">[具体的な姿]</p> <p>歴史の中で守り育んできた「沖縄の心」は、地域社会の一体感を醸成しており、相互に協力し合うユイマール社会が形成されている。 「沖縄の心」に支えられた社会では、一人ひとりが地域のために何ができるかを考え、地域づくりに積極的に参加する共助・共創型の地域社会が実現している。</p>	地域社会	<p>○地域社会をどのように再生すべきか。</p> <p>○地域のネットワークをどのように形成すべきか。</p> <p>○暮らしの満足度など豊かさを、どのように考えるか。</p>	<p>●地域の人材の有効活用や住民の協働による地域づくりを通して世代間の交流を深め、コミュニティの再生を図る。 ●地域の文化資源等を自ら発見し、磨き上げることで、地域の宝・財産として共有する。</p> <p>●地域住民と行政との連携により、共助・共創型のまちづくりを進める。</p> <p>●物質的な豊かさのみならず、生活の質や福祉の充実度を含め、県民の幸福度が高まる社会の構築を目指す。</p>

[実現効果]

沖縄で暮らす人々の生活に安らぎと生きがいをもたらす。
特に、離島での安全・安心な暮らしは、離島の人口減少、少子高齢化の進行に歯止めをかけ、「離島力」を高めている。

人と人との絆、地域社会の繋がりが見直され、コストをかけることなく安全・安心な暮らしが実現する。
地域社会の再生により、共助・共創型の社会が形成され、行政コストも低下する。

島嶼地域のユニバーサルデザインが確保され、地域の一体感、絆がより深まり、地域力が高まる。
島嶼地域の安全・安心モデル「ユイマールモデル」として、世界中に発信され、同様の島嶼地域の発展に資する。
安全・安心な島として、沖縄の新たな魅力となり、国内外から多くの観光客を引き付ける。

[めざすべき将来像]

[構成要素]



[将来像設定の意義]

沖縄は数少ない人口増加県であり、特に若者が多いことが大きな特徴である。この点は、人口減少社会に突入している日本の現状に鑑みれば、潜在的には大きな沖縄の強みであり、その強みをどう活かすかが重要である。また、大規模な基地返還が予定されており、返還跡地をどう有効活用するかも重要である。

その一方で、沖縄は、失業率が全国一、県民所得が全国最下位の地域であり、産業の振興、雇用の創出は重要な課題である。

また、40余の有人離島を抱える島嶼地域であり、少子高齢化、人口減少が著しい離島の振興は重要な課題である。

沖縄は全国で唯一、鉄道を持たない地域である。少子高齢化社会を迎えるに当たり、軌道系交通機関の導入を含む交通体系の抜本的な見直しが必要である。

大きな転換期を迎え、真の豊かさを追究する長期的な戦略をどう構築していくか。次世代を見据えて、その道筋の先鞭を付けることが現世代の責務である。

	①めざすべき将来像	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
	[具体的な姿]			
<p>希望と活力にあふれる豊かな島</p>	<p>人々は心の豊かさだけでなく、経済的な豊かさをも実感しており、希望を持って生活している。</p> <p>国への過度な財政依存から脱却し、民間主体の自立的な経済社会が形成されている。</p> <p>ヒト・モノ・カネが域内で循環しており、経済と環境との調和も図られ、活力にあふれた循環型の経済社会が形成されている。</p> <p>地域資源を活用した地場産業が発展し、沖縄経済の主役となっている。</p> <p>人々の間には「地産地消」の大切さが浸透し、地域の人々が地場産業の経営基盤を下支えしている。</p> <p>また、社会貢献型ビジネスが盛んであり、これに従事する人々は、生活するに十分な収入を得ながら、地域貢献できる喜びを感じている。</p> <p>沖縄の優位性を図る分野への積極的な参入や地理的な特性の活用により、科学技術の振興と新産業の創出等が図られ、国内のみならず、アジア・太平洋地域との交流人口も増大し、外需をも取り込むことで地域経済が発展している。</p> <p>内需と外需とがバランス良く取り込まれた経済社会では、所得や就業機会の格差が少なく、人々は癒しの風土の中で、精神的にも、経済的にも豊かに暮らしている。</p> <p>「住みよい島は呼びよい島」であり、国内外からの憧れの地ともなっており、多くの観光客が訪れ、経済社会の好循環が成立している。</p>	<p>産業振興</p>	<p>○国内外から収入を獲得するための輸出型産業をどのように育て、経済のエンジンとするか。</p> <p>○地域産業をどのように育て、地域の安定・発展に資するか。</p> <p>○アジアの経済発展を沖縄の発展のためにどのように活用するか。</p> <p>○未利用エネルギーを含む海底資源等をどう開発するか。</p> <p>○あるべき産業構造について、どう考えるか。</p>	<p>●世界の需要を意識した県独自の戦略的な取り組みを進め、観光産業の可能性や多様性をさらに拡充する。</p> <p>★国内外のシニア層及び富裕層を対象とした医療・健康サービス産業との連携や、リサーチ&リゾートを進める。</p> <p>●自然環境の保全を重視する地域とのゾーニングを明確にしつつ、本島西海岸エリアを都市型オーシャンフロントリゾートとして集中的に開発を進める。</p> <p>●観光振興や環境保全の財源確保のため、観光税等の導入を検討する。</p> <p>●ソフトウェア開発・コンテンツ制作など情報通信産業の高度化・多様化を進める。</p> <p>●農林水産業の品質面・健康面の優位性を確立するとともに、地産地消のほか、観光や健康食品産業等の連携を進める。</p> <p>●優位性のある地域資源を持続的に活用するための戦略的な地域産業振興方針を策定し、計画的な取り組みを進める。</p> <p>★沖縄の優位性や地理的特性、将来の市場の発展性等を加味し、科学技術の振興や新産業の創出など、戦略的な産業振興を推進する。</p> <p>●物流やコンベンションなどアジアとの交流に資する交流産業の振興を図る。</p> <p>●アジア・太平洋地域との交流人口を増大させ、人口減少に影響を受けにくい地域を構築する。</p> <p>★大学院大学を核とした知的クラスターの形成を図る。</p> <p>★海底資源等については、低炭素社会の実現や環境関連産業の振興に向け、国の支援の下、開発を進める。</p> <p>●観光産業を主要産業とし、情報通信関連産業および第一次産業や環境関連産業等との連携による産業振興を推進する。</p>

	①めざすべき将来像	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
	[具体的な姿]			
希望と活力にあふれる豊かな島	<p>若者から高齢者まですべての人々が、安心して職を得て、働くことができる環境が整っている。特に、若者に対しては、それぞれの能力に応じた多様な進路や職場があり、自分に合った仕事を求めている。</p> <p>失業しても、働く意欲と能力があれば、すぐに新しい仕事が見つかる安定した雇用環境が整備され、チャレンジしやすい仕組みが確立している。</p>	雇用創出	<p>○少子高齢化の進展による労働力人口減少の影響をどのように考え、どう対応していくか。</p> <p>○頭脳流入をどのように進めていくか。</p>	<p>●働く意欲と能力のある高齢者など、各世代の就業環境の整備を図る。</p> <p>●優秀な事業家等の受け入れ環境の整備を図る。</p>
	<p>離島では、第一次産業を中心として観光産業など他産業と連携した総合的な産業が展開されており、島内の需要を満たすとともに、充実した情報通信基盤を活用して、国内外に移輸出することで、収入を得ている。第一次産業は観光産業との融合が図られることで、魅力的な就業の場ともなっており、経済的にも、精神的にも豊かな生活が営まれている。</p> <p>こうした島での暮らしは、国内外の人々の憧れとなっている。</p> <p>沖縄は、国益を担う地域として、国との協力の下、独自の離島振興策を進めている。</p> <p>また、近隣諸国と積極的に独自の国際交流を行っている。それぞれの島の自立的な振興策は、人々のユイマール精神の支えもあり、沖縄全体としての希望と活力につながっている。</p>	離島力の発揮	<p>○広大な海域を持つ離島の重要性をどう位置づけるか。</p> <p>○地域資源をどのように産業化するか。</p> <p>○地域の担い手をどのように育成するか。</p> <p>○雇用の場をどのように創出するか。</p> <p>○離島の交通問題をどう考えるべきか。</p>	<p>★排他的経済水域の確保や豊富な海洋資源の存在など日本の国益を担う地域として、国の対応もしくは国の協力・支援を導入する。</p> <p>★海洋島しょ圏としての価値の再確認を行う。</p> <p>★情報通信基盤を活用した離島力の発信と潜在能力の顕在化を図る。</p> <p>●交流人口を増大させ、地域の産業や雇用の場の創出を図るとともに、必要な人材の育成を進める。</p> <p>★離島発展のため、低料金の航空網を構築する。</p>
	<p>嘉手納基地より南の在沖米軍基地の返還が実現している。</p> <p>返還が実現した基地跡地では産業振興が進む一方で、エコアイランドにふさわしい美しい街並みが形成されている。基地跡地は、かつて得られていた収入を補って余りある程の経済効果をもたらしており、持続的に発展する島を象徴する地域となっている。</p>	基地返還跡地	<p>○2030年の在沖米軍基地の状況をどう考えるか。</p> <p>○県全体の発展のために基地返還跡地をどのように活用すべきか。</p> <p>○計画的かつ円滑な跡地利用をどう進めるか。</p>	<p>●将来的には基地のない沖縄を目指す、2030年時点では、現在合意されている基地が返還されていることを想定する。</p> <p>★アジアの経済発展やグローバル化の進展に対応した産業振興や居住空間の確保、沖縄を拠点とする新たな国際貢献推進等に活用する。</p> <p>★新たな跡地利用制度を創設する。</p> <p>●返還跡地利用のロードマップを作成する。</p> <p>●環境の復元・再生を含む価値創造型(時間とともに価値が高まる)のまちづくりを目指す。</p>

	①めざすべき将来像 [具体的な姿]	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
希望と活力にあふれる豊かな島	<p>沖縄本島内には、南北に縦断する軌道系交通が導入されている。この軌道系交通機関を幹線として、コミュニティバスが走っており、多くの人々が、安くて便利な公共交通機関を利用している。</p> <p>公共交通機関の充実により、街を走る自動車の数が減り、交通渋滞がなくなり、さらには、事故も減り、安全な社会が実現している。</p> <p>高齢者等の交通弱者や国内外からの観光客も(東)、安くて便利な公共交通機関を利用し、外出を楽しんでいる。街を走る自動車は、その多くが<u>環境に配慮した自動車</u>で、環境先進地域として国内外から注目を集めている。</p>	交通体系	<p>○公共交通ネットワークのあり方についてどう考えるか。</p> <p><u>○交通体系と空間利用を、どのように融合させるか。</u></p> <p><u>○アジア・太平洋の島しょ地域や地方都市等との多元的な交流を可能とするシームレスな交通体系を、どのように構築すべきか。</u></p>	<p>★県土構造の再編を視野に入れつつ、軌道系交通機関の導入を含む「<u>21世紀の課題解決を先導する総合交通体系</u>」の整備を進める。</p> <p>●<u>低炭素社会の実現等に向けてマストランジットの導入を図る。</u></p> <p>★離島を含む東アジア地域との国際交通ネットワークの構築を進める。</p> <p>●<u>アジア・ゲートウェイの拠点形成に向けて、さらなる推進を図る。</u></p>

[実現効果]

人々に、経済的な豊かさをもたらす。
 失業者がいなくなり、社会が安定する。
 少子高齢化、人口減少が著しい離島の振興が図られることにより、国境離島を含む離島が安定的に維持される。
 国境離島の維持により、排他的経済水域の確保など国益に貢献できる。
 基地返還跡地が有効に利用されることにより、米軍基地の全面返還の機運が盛り上がる。
 社会的弱者も利用しやすい公共交通機関が整備されることにより、人々の生活の利便性が向上する。

…平和の島

[めざすべき将来像]

世界に開かれた平和な島

[構成要素]

国際交流

国際協力・貢献

平和の発信

[将来像設定の意義]

地理的特性を活かす上で、国際交流、国際協力・貢献をいかに図るかは、重要な課題である。
歴史的背景を踏まえた平和の発信と伝統、文化等を背景とする沖縄の持つソフトパワーの活用等は、重要な課題である。
アジア、とりわけ中国との歴史的関係性の蘇生を通じた国際交流が展開され、沖縄の比較優位であるソフトパワーによる国際交流やビジネスが展開される。

	①めざすべき将来像 [具体的な姿]	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
世界に開かれた平和の島	<p>琉球王朝時代より受け継がれてきた伝統文化に加え、東南アジア諸国との交易など歴史の中で培われてきた開放的で、国際色豊かな文化的風土が脈々と息づいている。こうした風土がアジアの人々を引き付け、ヒト、モノ、カネ、文化など様々な面での交流が盛んに行われている。</p> <p>また、歴史の中で培われてきたホスピタリティに溢れる「沖縄の心」は、日本とアジアとの架け橋となり、人種や世代の垣根を超えた交流が行われている。</p> <p>沖縄の歴史的・文化的特性を活かした国際交流が盛んな一方で、地球温暖化対策など環境技術を世界に発信する先進地域としての国際的な地位も確立しており、国益、地球益に貢献している。</p> <p>また、世界最先端の研究を行う大学院大学を中核として、国際的な研究機関が集積し、世界をリードする研究者達は、沖縄の豊かな自然環境と癒しの風土の下、多くの研究成果を残し、世界中に発信されている。</p> <p>さらに、国際的な研究者による国際人材ネットワークも形成され、世界から注目を集める国際協力・貢献の拠点となっている。</p> <p>人々は、沖縄が焦土と化した悲惨な歴史を風化させることなく受け継ぎ、命どう宝に代表される平和を希求する「沖縄の心」を世界に発信している。また、人々は世界平和の発信拠点としての役割を強く意識おり、こうした「沖縄の心」に基づく取り組みは、国内外より広く認知され、国際紛争や対立の緩衝拠点として、国連機関等が集積にもつながっている。</p>	国際交流	<p>○国際的な相互依存が進む中で、どう交流を図っていくか。</p> <p><u>○多角的なネットワークを通じた経済的な発展をどう図っていくか。</u></p>	<p>★島嶼地域という沖縄の特性を活かした先進モデルの構築等により交流を拡大・深化させる。</p> <p>●<u>沖縄独自のソフトパワーを活用した民間外交を展開する。</u></p> <p>●世界のウチナンチュ等のネットワークを活用する。</p> <p>●<u>東アジア(中国、台湾、ASEAN等)とのネットワーク構築により、ビジネス・新産業創出など新たな沖縄振興を先導する交流拠点の形成を図る。</u></p>
	国際協力・貢献	<p>○アジア・太平洋諸国等のニーズや国際的課題に対する貢献をどう考えるべきか。</p> <p>○沖縄が貢献できることは何か。</p>	<p>★アジア・太平洋地域との交流ネットワークを構築し、世界規模の課題解決に向けた国際貢献・協力拠点等の形成を図る。</p> <p>★<u>離島振興、環境保全、海洋問題など沖縄と共通する分野について、島しょ国に対する情報発信や技術移転を含め協力・貢献を進める。</u></p> <p>●<u>JICAとの一層の連携強化を図り、戦略的・継続的な取り組みを進める。</u></p>	
	平和の発信	<p>○平和を希求する心をどのように守り、発信していくか。</p>	<p>★東洋のジュネーブ(アジアの緩衝地)を目指し、国連など国際機関の誘致を図る。</p> <p>●<u>反戦平和にとどまらない、情報の発信を行う。</u></p> <p>●<u>普天間基地の返還跡地を「環境と平和のシンボル」として整備する。</u></p>	

[実現効果]

地理的特性を活かした国際交流、国際協力・貢献拠点が形成される。
平和の発信や沖縄のソフトパワーの活用により、国際的な地位が高まる。
沖縄が世界中より注目されることにより、人々の「沖縄アイデンティティ」がより強くなる。

[めざすべき将来像]



[構成要素]



[将来像設定の意義]

歴史の中で培われてきた県民性は評価が分かれるものの、大切にすべき県民性を検討し、共有することが必要である。
資源の乏しい島嶼地域においては、人材の育成が重要な課題であり、教育のあり方を含め、検討することが現世代の責務である。

①めざすべき将来像 [具体的な姿]	構成要素	②実現に向けた課題	③取り組みの基本方向 (★は、戦略的な基本方向)
<p>人々は、島嶼地域「沖縄」において、人材の育成が重要との考えを共有している。 こうした考えの下、沖縄がめざすべき方向を見据え、戦略的な人材の育成が行われている。戦略的な育成方針により、多様な分野で、全国、世界で通用する多くの人材を輩出している。 特に、語学教育には力を入れており、高校を卒業するまでには、二カ国語以上が話せるようなカリキュラムが生まれ、世界で活躍できる人材を送り出している。</p> <p><u>沖縄の子ども達の学力や進学率など教育水準は高く、生き生きと学習している。</u></p> <p>また、誰もが、いつからでも、学びたい時に学べる環境が整っており、学べる喜びをいつまでも享受している。 さらに、何度でも新しいことにチャレンジできる環境が整っており、人々は失敗を恐れず、新しいことに挑戦している。このような再チャレンジしやすい環境の下、一人ひとりが個性と能力を存分に発揮し、生きがいを実感し続けている。</p> <p>多様な能力を発揮し、未来を拓く島</p>	人材育成	<p>○各分野を担う人材をどう育成し、<u>活用していくか。</u></p>	<p>●質の高い沖縄観光の実現に向け、沖縄観光をリードする多様な人材育成や同時通訳等の専門的な人材育成等を図る。 ●情報通信産業の高度化・多様化に向け、スキルアップを含め、高度な人材の育成を図る。 ●バイオ産業や健康関連産業など新たな産業の振興に向けた人材の育成を図る。 ●優位性のある地域資源を活用した地場産業の振興につながる人材育成の充実強化を図る。 ★環境・エネルギー・医療など、世界に貢献する最先端産業の振興に向け、必要な人材育成システムを構築する。 ★大学院大学を含む<u>高等教育機関の活用</u>によるフロントランナーを育成する。</p> <p>●<u>各分野で育成した人材について、有効活用を図る。</u></p>
		教育	<p>○学校教育の目指すべき方向性をどうすべきか。</p> <p>○地域社会における教育はどうあるべきか。</p>

[実現効果]

大切にすべき県民性を共有することで、地域の一体感が強まり、地域力の向上に資する。

全国、世界で活躍できるような人材を育成することで、沖縄の発展に資する。

沸騰するアジア市場での沖縄人の活躍につながる。

全国、世界の各分野において、沖縄が輩出した人材が多様な能力を発揮することで、次世代の沖縄を担う子ども達の自信につながる。

3. 将来像の実現に向けた戦略的な基盤整備

(1) 県土構造の再編と機能の整備

沖縄の持つ地域特性を踏まえ、[北部圏域]、[中南部都市圏]、[宮古圏域]、[八重山圏域]がそれぞれの地域の特性を活かしつつ相互の連携を図ることにより均衡ある発展を実現し、さらにはアジア諸国との活発な交流を通して、国際交流と貢献を果たすことのできる21世紀の県土構造の構築を目指すものとする。

①本島エリアと先島エリアの設定

沖縄において、【本島エリア】と【先島エリア】の2エリアを設定し、それぞれのエリアは社会的・経済的に自立したエリアとする。

【本島エリア】は、[北部圏域]と[中南部都市圏]で構成する。

【先島エリア】は、[宮古圏域]と[八重山圏域]で構成する。

【本島エリア】

【本島エリア】においては、[北部圏域]と[中南部都市圏]とが明確な方向性を保ちつつ発展するとともに、交通ネットワークの整備等により総合の連携強化と実質的な域内距離の短縮を図る。

【先島エリア】

【先島エリア】においては、[宮古圏域]および[八重山圏域]については、ともに離島力を発揮し、それぞれの特色を活かしながら発展を図りつつ、交流の促進によりお互いにその魅力度を高めていく。

②各圏域の主な機能

[北部圏域]

- ・「ヤンバル」は、貴重な動植物の宝庫であり、自然公園地域指定や国立公園化等を推進し、自然環境保全機能を持たせる。
- ・名護市を中心に、圏域の商業・業務機能、教育・文化機能、広域医療機能、IT情報産業機能等の集積を促進するとともに、本部、今帰仁地区及び圏域離島との連携による海洋リゾート・都市機能を持たせる。
- ・恩納村の科学技術大学院大学を核として知的クラスターの形成を図り、学術研究機能、学術交流機能の集積を促進するとともに、研究学園都市としての周辺環境整備を進め、西海岸地域の集積したリゾートとの連携による学術研究・リゾート機能を持たせる。

〔中南部都市圏〕

- ・ 読谷村など優良農地が広がる地域においては、農業基盤の整備とあわせ、観光産業との連携を図り、観光連携型農業機能を活用する。
- ・ 中城湾港を中心とする一帯は、IT津梁パークにおける情報通信産業の高度化のための拠点の整備や政府系研究機関などの誘致、工場団地に進出した企業等の集積を図るほか、近い将来沖縄近海で採掘が期待されている豊富な海洋資源を活用した新たな産業創出のための研究開発拠点としての役割も期待されることから新産業開発技術機能を活用する。
- ・ 本島南部の平和祈念公園一帯は、国内のみならず海外からも平和学習の場として広く活用されるように、域内交通の充実を図り、国際平和交流機能を持たせる。
- ・ シームレスなアジアの形成とアジアゲートウェイ機能の一翼を担うため、航空・海運ネットワークの国際的な拠点にふさわしい空港や港湾機能の拡充を図るとともに、自由貿易機能と国際物流拠点の相乗効果による「国際交通・物流ネットワーク機能を活用し、新たな産業振興を図る。

〔本島周辺離島〕

- ・ 本島周辺離島においては、島しょという特性を活かし、島しょ定住・交流促進機能を持たせる。

〔基地返還跡地の有効利用〕

大規模な基地返還跡地は、良好な生活環境の確保、様々な産業の立地、健全な都市の形成、交通体系の整備、自然環境の保全・再生など、沖縄の振興発展に大きく寄与する貴重な空間として期待されている。

風力・太陽光発電等の自然エネルギーの導入割合を高めるほか、供給処理においては循環型社会の実現に向けた実験的な取り組みに挑戦するなど環境共生を極限まで高めたモデル都市を実証し、その技術を世界に発信していく。

跡地へは都市機能の積極的な再配置を図るなど、都市機能の偏在を是正しつつ中南部都市圏の一体性を高めていく必要がある。

- ・ 普天間飛行場跡地においては、広域における防災性や優れた環境づくりの中核として跡地の魅力を高め、また大規模な駐留軍用地跡地の返還記念として(仮)普天間公園を整備する。また、国際機関の誘致など国際貢献・協力都市機能を持たせる。
- ・ 牧港補給地区跡地を含む西海岸地域は、都市近郊の観光産業の集積のみならず、域内での職・遊近接の実現を図る都市近接・リゾート機能を持たせ、豊かな水辺空間の創出を図り、域内への産業誘致のツールとしても戦略的に活用する。
- ・ キャンプ瑞慶覧跡地においては、糸満市から名護市までの南北軸を貫く新たな骨格的な公共交通システムの導入を図るとともに、これにうまく結節した枝線の整備を進めていく必要があることから、交通結節・新産業機能を持たせる。

〔中南部都市圏の一体的整備〕

本島中南部は110万人を超える人口が集中し、市街地が連たんする等、一つの政令市に匹敵する都市構造を持っている。これは島しょ地域の都市としては世界的にも例を見ないものと言われており、このため21世紀を展望した場合、政令市の品格を備えた世界の島しょモデルとなる都市の実現を目指すものとする。

この島しょモデル都市の実現ためには、現在の行政システムの再構築と、限られた島しょ空間における社会資本の効率的活用を図ることが不可欠であり、このため、18ある市町村の合併を進め、広域的な視点でまちづくりを進める。

中南部都市圏においては大規模な基地返還が予定されており、これら約1000～1500haを超える地域開発は、本県の県土構造を再編する最後のチャンスでもあり、全跡地の利用計画を総合的なマネージメントの下に調整し、効率的に整備することによって中南部全体の発展を考えていく仕組みが必要となる。このためにも、中南部全体を一つの広域都市圏として再編し直すなど、跡地利用の視点を引き上げる必要がある。

[宮古圏域]

宮古島のかげがえのない財産である美しい海、海岸線や周辺離島をつなぐ架橋の景観を活かした美しい島づくりを推進する。
島民の生活に密着した地下水の保全を図るとともに、緑と花に包まれた環境づくりを促進する。
また、太陽光発電や風力発電等のクリーンエネルギーの積極的導入やバイオマス資源の活用等により低炭素型エコアイランドの構築を図る。

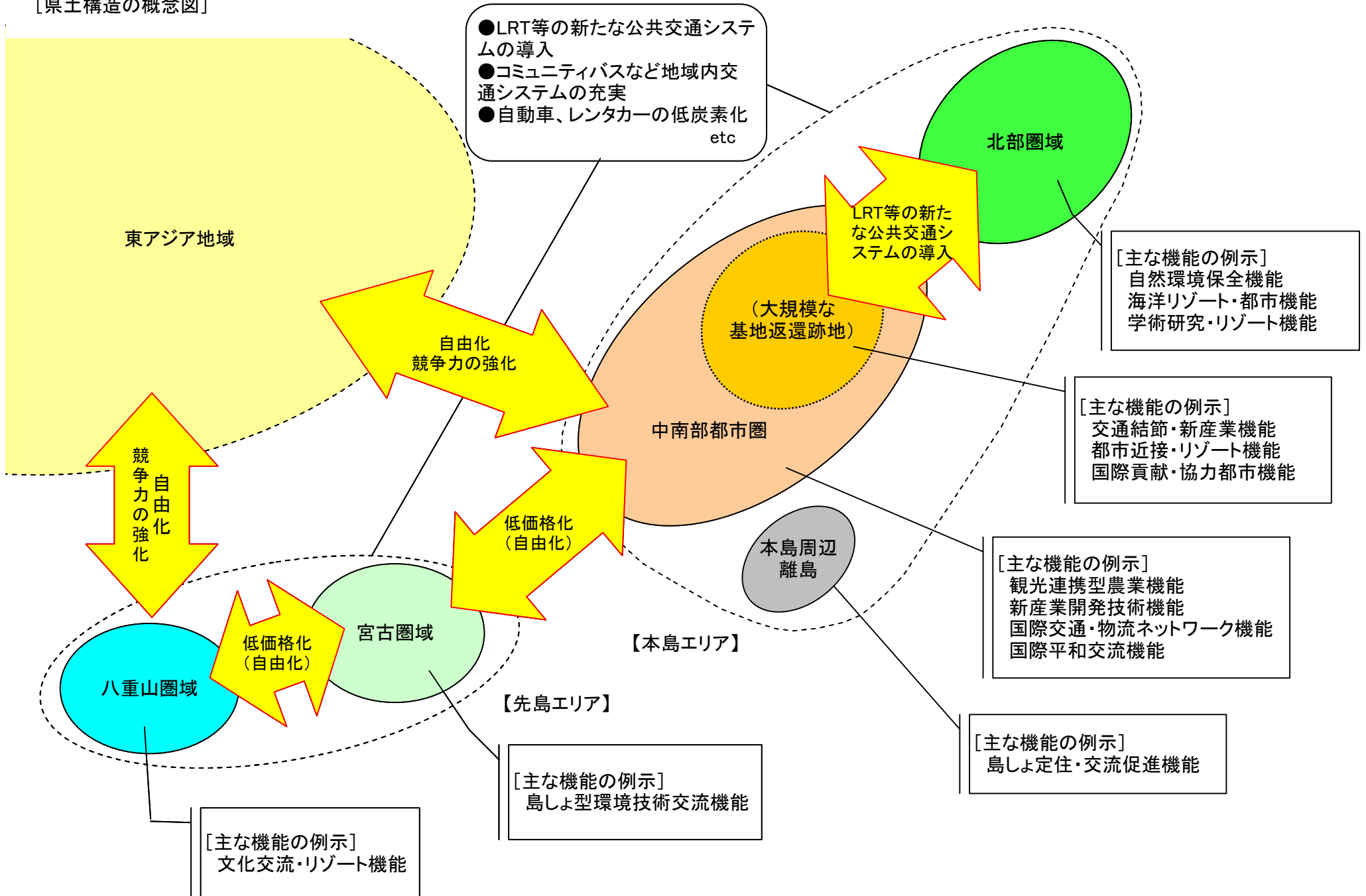
- ・ 環境モデル都市の実現に向けた取り組みを通して、島しょ型環境技術交流機能を持たせる。

[八重山圏域]

世界に誇れる貴重な自然環境を保全するとともに、地域においては循環型社会の構築を進めて環境負荷の低減に努める。さらに大規模なサンゴ礁の白化現象などに対しては地球温暖化の影響等を踏まえた生態系の保全・再生技術の確立をめざし、国際的な情報発信拠点として位置づけていく。
また入域者の影響が増大しつつある離島においては、生態系に与える影響を十分に検討し、必要に応じて入域者数の上限を設定するなど特別保全ゾーンとしてのルールづくりを進めるとともに、必要に応じてその制限を強化し神秘性を高める。
域内の自然風景の保全については、最優先で取り組むべき課題であると同時に、農村や市街地の景観づくりについても、一定のルールの下に必要なコントロールを行う。

- ・ 島々の多様性を活かし、固有の生活文化、伝統芸能、工芸等を継承するとともに、エコツーリズム、体験学習等の推進を図るなど、多様な観光産業の展開を図り、文化交流・リゾート機能を持たせる。

[県土構造の概念図]



(2) 交通体系の整備

東京と同距離内にソウル、上海、台北、マニラ等の主要都市が位置し、広大な海域に散在する多くの離島で構成される当県にとっては、県内・国内外を結ぶ交通基盤や情報通信基盤のネットワークの確立・強化は、日本とアジア・太平洋地域の人、物、情報の交流を促進し、本県の持続的な発展を支えていくための必要不可欠な社会基盤である。

東アジア地域の経済成長が続くなか、中国が世界最大の生産工場から世界最大の消費地になり、台湾との経済の融合が進展する中で、両国と地理的、歴史的にも密接な関係にある沖縄においては、中国、台湾をはじめとする東アジア地域と沖縄、日本本土を結ぶ交通基盤の整備は不可欠である。

①整備の必要性

- ・地球温暖化や石油資源の枯渇および価格高騰は、沖縄の自然環境や県民生活に今後より大きな影響を与えることが予測され、二酸化炭素の排出量の大幅な削減、省エネルギー化、価格高騰のリスク回避等のため、過度に自動車に頼る状態から、公共交通や多様な交通手段を適度に、賢く利用する状態に移行していく取り組み(モビリティ・マネジメント)が重要である。
- ・米軍再編に伴う平成18年5月「2+2」合意により、嘉手納飛行場より南の約1000～1500haの膨大な区域が返還される見込みであるところから、中南部都市圏の県土構造を再編し、返還跡地全体を一体とした新たな制度の創設により、全域について広域的な開発とこれらを結ぶ交通基盤の整備が必要である。
- ・戦前の沖縄には、県営の「軽便鉄道(沖縄県鉄道)」が那覇から与那原、嘉手納、糸満の3路線の47.8kmを結んでいたが、戦後、その復旧が顧みられることなく、自動車交通中心の社会になった。この失われた社会基盤を新たな時代に即した姿で再生していくことにより、公共交通の充実を図る。

②整備の方向性

- ・持続的な発展を実現するため、自動車等の化石燃料の使用の抑制と、公共交通等の充実により二酸化炭素の排出量を大幅に削減していく。特に小規模な離島においては、風力、太陽光発電等の自然エネルギーを電源とする電気自動車の導入によるガソリンエンジン車の廃止により、大幅な二酸化炭素の排出量の抑制を実現していく。
- ・中南部都市圏を沖縄の自立的発展に寄与する貴重な空間として県土構造の再編を行う。
なかでも、米軍再編による嘉手納飛行場より南の広大な基地返還跡地の利用については、中南部都市圏を縦貫し、これらの跡地を結節するLRT等の新たな公共交通システムの導入により、新たな都市機能の創出や経済振興を実現していく。
- ・人口減少と高齢化が進展する中で、日常生活で誰もが利便性を確保できる交通環境や、すべての人に優しいユニバーサルデザイン化、離島からの移動の利便性の向上や、費用負担の低減化を実現していく。
- ・県民生活において、過度に自動車に頼る状態から、公共交通や多様な交通手段を適度に、賢く利用する状態に移行していく取り組み(モビリティ・マネジメント)を進め、県民自らが普段の交通について考え、自らの意志で徒歩や公共交通への利用を進めるような価値観の共有を図る。
- ・道路、橋梁、港湾、空港等の社会資本となる交通基盤の整備については、地方分権の進展による国からの権限委譲を受け、一体的に効率的な管理運用を図るとともに、改修や更新の需要を総合的に把握し、メンテナンスを行うことで耐用年数を延長し、費用を平準化することで持続可能な社会資本の維持を実現していく。

③各分野の整備の方向性

[陸上交通]

・新たな公共交通システムの導入

米軍再編により返還される大規模な基地跡地の利活用と中南部都市圏の形成のための交通基盤、飛躍的な伸びが見込まれる東アジア諸国等からの交流人口の増加、人口減少と高齢化により必要とされる利便性の高い交通、これらに対応するため、戦前の沖縄にあった「軽便鉄道」。この失われた社会基盤を新たな時代に即した姿で再生していくことにより、公共交通の充実を図る。

沖縄都市モノレールの延伸、基幹バスの導入を前提に、公共交通の骨格となる中南部都市圏を縦貫し、返還が予定されている大規模な基地跡地を結節し、名護市方面に至るLRT等の新たな公共交通システムの導入を実現する。

・基幹バス、コミュニティバスの充実

新たな公共交通システムの整備状況にあわせて、基幹バスを再編する。路線については、補完的な路線の充実を実現し、新たな公共交通システムとの効率的な接続により利便性の向上を図る。

地域内で買い物、通院、通学等の日常的な移動が気兼ねなくできるようなコミュニティバス等の地域内交通システムを充実する。

・自動車、レンタカーの低炭素化

バス、タクシー等の公共交通の車両、業務用車両、自家用車ともに、バイオ燃料の使用、プラグインハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車、水素燃料車の導入を大幅に進める。特に、公共施設、商業施設の駐車場に充電設備を多数設置し、全国に先駆けて電気自動車化を進める。

こうした取り組みにより、段階的にガソリンエンジン車を廃止する。

カーシェアリングに積極的に活用することで、一般家庭での2台目の自家用車や、事業所の営業車の削減を進める。

[海上交通]

・国内・国際航路の充実

既に整備されている予定の那覇港の国際貨物コンテナターミナル、中城湾港、国際旅客船バース、主要な観光拠点のマリーナ、米軍再編に伴う那覇軍港、キャンプキンザーの返還を受けた那覇港湾の整備等の社会基盤を活用し、那覇空港の国際航空物流拠点と連携した物流の多様化による経済振興や、国際的に質の高い海洋レジャー環境を実現する。

・離島航路の利便性の向上

離島航路を持続的に維持していくことを目的として、経営の統合や、船舶の共同利用によるコストの削減等を図る。

これにより、運賃を大幅に低減し、離島住民の移動や物流コストの大幅な低減を実現する。

また、島々を周遊する航路等の開発により、交流人口の増加や、滞在日数の増加による観光振興を図る。

[航空交通]

・ 国内・国際航空路の展開

那覇空港については、沖合いの2本目の滑走路増設、国内線ターミナルの増設、国際線ターミナルの移設、国際航空物流構想の推進により、旅客、貨物ともに羽田、成田に次ぐ国内第3位のハブ空港を実現する。

また、国内の地方空港との路線の拡充、東アジアの諸都市との路線を拡充し、東アジアと日本のゲートウェイとしてサブ的な国際メガハブ空港を実現する。

沖縄県域に存在する5本の国際級滑走路(那覇空港2本、下地島空港、宮古空港、石垣空港)を連携、役割分担をして有機的に活用していくことで東アジアの中での交流結節拠点の形成を図る。

このため、新石垣空港と、宮古の2空港のうちの1空港には国際線受け入れの機能を整備し、東アジアの特に富裕層の観光客を誘客し、周辺離島での周遊も含めて観光振興を図る。

例えば、ソウル、北京、上海、香港等を出発地として、石垣、宮古、那覇の空港を経由してまた出発地の空港に戻る、というような形で国際線から直接県内の国内路線を経由する路線をニーズに応じて多様に設定することで、新たな交流人口の流れを創出する。(ソウルからの乗客はそのまま搭乗が可能)

・ 離島航空路の充実

離島振興をはかるため、現行の路線・便数の維持および休止路線の復活、新規路線の開設を目指し、経営の公的支援や、低コストな機材導入によるコストの削減等を図る。

離島路線の安定化とあわせて、運賃を大幅に低減し、離島住民の移動や物流コストの大幅な低減を実現する。

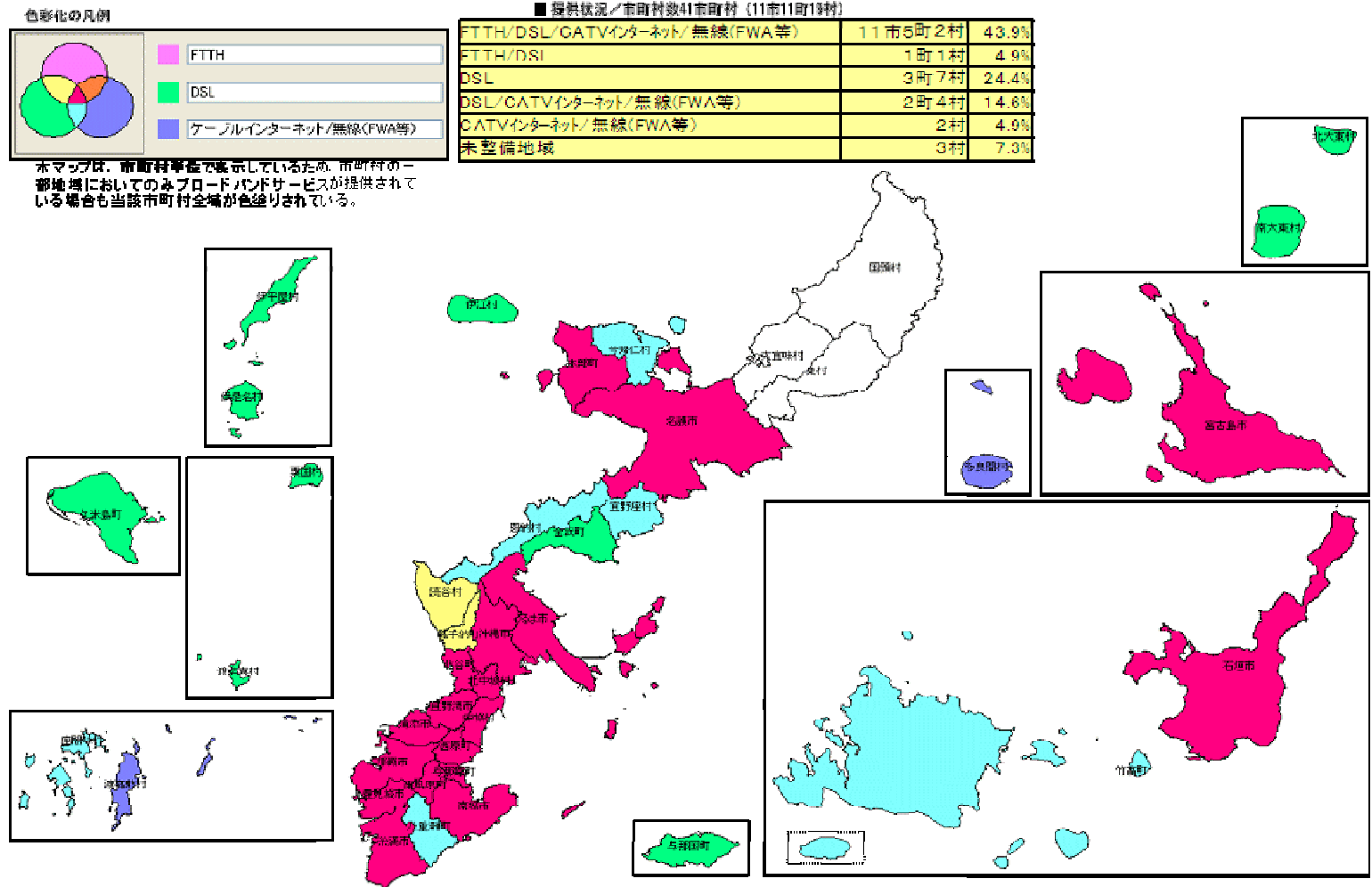
また、島々を周遊する航路等の開発により、交流人口の増加や、滞在日数の増加による観光振興を図る。

(3) 高度情報通信社会の実現

①情報通信基盤の課題

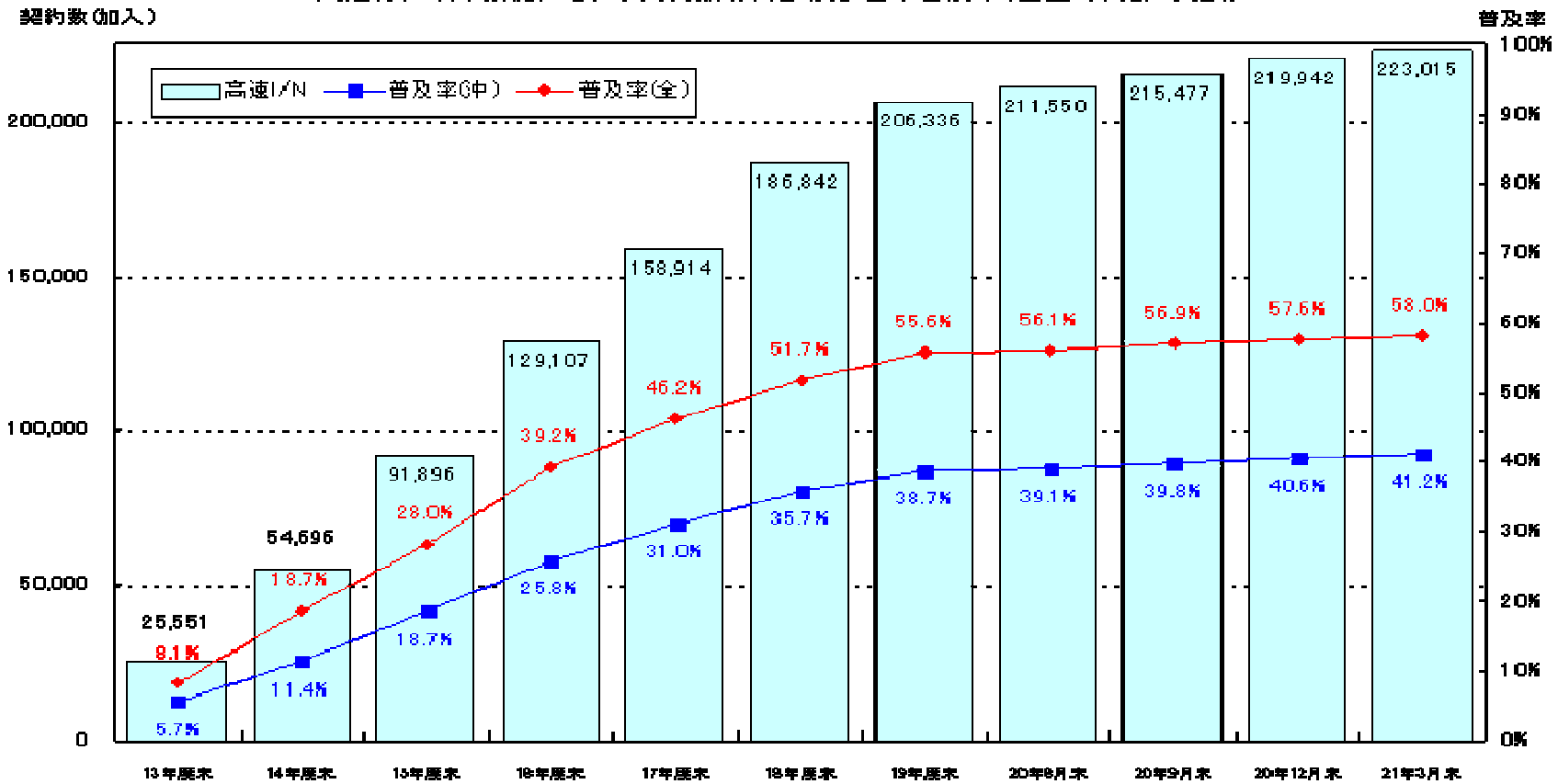
本県のブロードバンド加入可能世帯率は、一定程度の水準を確保しているものの、北部の3村は未整備地域となっており、離島の超高速化も十分ではない状況である。また、実際の世帯普及率は低い水準にある。本県においては、北部・離島など条件不利地域における基盤整備を早急に進めるとともに、情報通信技術の一層の利活用を図ることが必要である。

沖縄県ブロードバンドマップ（平成21年3月末現在）



出典：総務省沖縄総合通信事務所HP

高速インターネット接続サービスの契約数(沖縄)及び世帯普及率(全国/沖縄)の推移

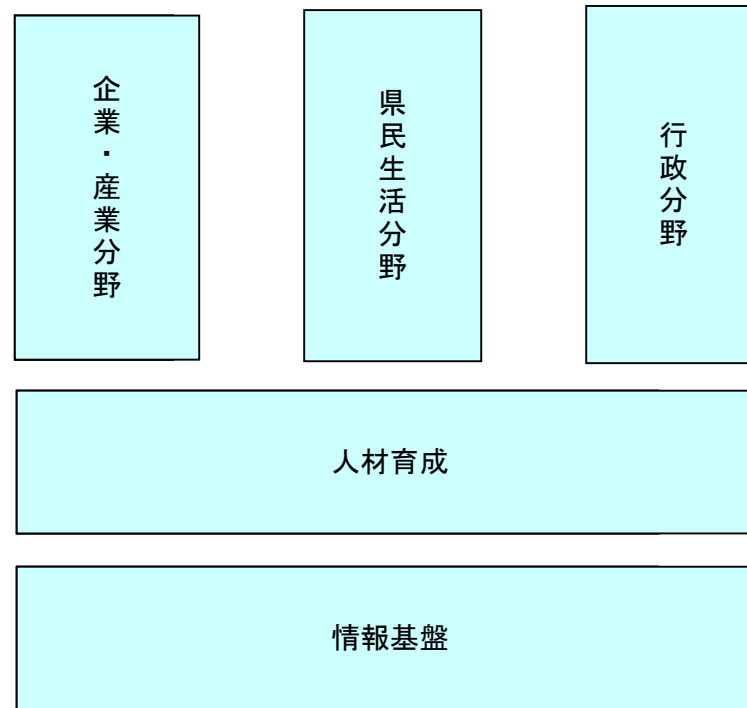


出典：総務省沖縄総合通信事務所HP

②基盤整備の今後の方向性

本県におけるユビキタスネット社会(※)を実現するためには、必要とする全ての県民が、低廉な料金で高速インターネットを利用できるような環境を整備することが必要である。従来の有線中心のインフラは、基地局の整備などが必要となるため、ユーザー数が少なく、民間の採算ベースに達しない過疎・へき地における環境整備に適していないと考える。基地局を必要としない、次世代の通信技術を先駆けて導入し、本県全土における基盤整備を実現することが期待される。

※「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」ネットワークにつながるにより、様々なサービスが提供され、人々の生活をより豊かにする社会。



③情報通信基盤の活用

〔電子自治体の推進〕

結婚、引越し、退職など県民のライフイベントごとに必要となる、公共機関及び民間企業への手続きを一括して行えるようにする。ワンストップサービスの実現により、県民が実感できる生活利便性の向上を図る。

〔医療分野〕

遠隔医療を可能とする制度の見直しを行い、全世帯における在宅医療を可能とする。また、遠隔手術ロボット(※)の技術が確立されることで、本県全土において医療格差は解消し、どこでも安全で良質な医療を受けられることが期待される。また、レセプトデータの蓄積・疫学的活用により、予防医学の分野における先進地域として健康・長寿を実現する。

※遠隔地からの操縦により、ブロードバンド回線を通じて、離れた手術室のロボットが手術を行うもの。

〔教育分野〕

離島に居住しながら高等教育を受ける機会を確保するため、双方向型授業による教師・クラスメイトとの質疑応答が可能な、オンラインによる遠隔教育の活用を検討する。活用にあたっては、定期的に生徒が集まって課外活動を行うなど、教師・クラスメイト間のコミュニケーションが十分に図られるよう配慮する。

〔産業振興〕

ICTを活用し、農作業の省力化・生産性の向上を図るとともに、生産者と小売業者・飲食店が直接インターネットで連携することにより、販路拡大や流通の合理化を実現させる。

④高度ICT人材の育成

引き続き、民間主導による人材育成を図りながら、産学官連携の下に県内ICT単科大学院等の高等教育機関を設置し、融合型高度ICT人材の育成拠点を形成する。また、当校においては、遠隔教育システムを活用した世界最高水準のICT教育機関として国内外の優秀な留学生受け入れを可能とすることで、卒業後の就労者(人材)受け入れに寄与することが期待される。

(注) 情報通信技術は、技術革新が特に速い分野であり、20年後の技術を想定することは困難である。このため、当該骨子案では、現時点の技術を出発点とした基盤整備および利活用法の検討を行っている。